

# 耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=1.0)

1. 機種 =

2. 形名 =

## 3. 機器諸元(図1参照)

(1)機器質量(運転質量)  $W =$   kg

(2)アンカーボルト

①総本数  $N =$   本

②サイズ・形状  $M =$   形

③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積)  $A =$   mm<sup>2</sup> =  × 10<sup>-6</sup> m<sup>2</sup>

④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数  $N_t =$   本

(3)据付面より機器重心までの高さ  $H_g =$   mm =  m

(4)検討する方向からみたボルトスパン  $L =$   mm =  m

(5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離  $L_g =$   mm ( $L_g \leq L/2$ ) =  m

## 4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度  $K_h =$

(2)設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 =$

(3)設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$   N

(4)設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$   N

(5)アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$   N

(6)アンカーボルトのせん断力  $Q = F_h / N =$   N

(7)アンカーボルトに生ずる応力度

①引張応力度  $\sigma = R_b / A =$   MPa <  $f_t = 176.4$  MPa

②せん断応力度  $\tau = Q / A =$   MPa <  $f_s = 132.3$  MPa

③引張とせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau =$   MPa

$\sigma =$   MPa <  $f_{ts} =$   MPa

(8)アンカーボルトの施工法

①アンカーボルトの施工法 =

②コンクリートの厚さ =  mm =  m

③ボルトの埋込長さ =  mm =  m

④許容引抜加重  $T_a =$   N >  $R_b =$   N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分な強度を有する。  
本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

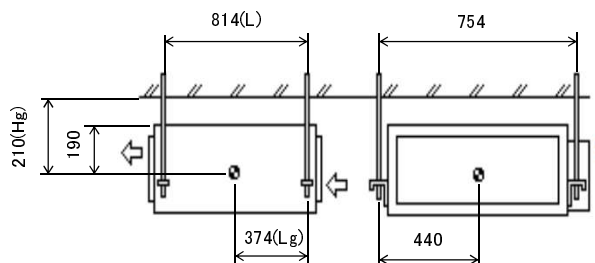


図1

三菱電機株式会社	作成日	16/6/10	仕様書番号	WYNB1-1956	副番	-
----------	-----	---------	-------	------------	----	---

# 耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=2.0)

1. 機種 =

2. 形名 =

3. 機器諸元 (図1参照)

- (1) 機器質量 (運転質量) W =  kg
- (2) アンカーボルト
  - ① 総本数 N =  本
  - ② サイズ・形状 M =  形
  - ③ 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積) A =  mm<sup>2</sup> =  m<sup>2</sup>
  - ④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 Nt =  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ Hg =  mm =  m
- (4) 検討する方向からみたボルトスパン L =  mm =  m
- (5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 Lg =  mm (Lg ≤ L/2) =  m

4. 検討計算 (各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度 Kh =
- (2) 設計用鉛直震度 Kv = Kh / 2 =
- (3) 設計用水平地震力 Fh = Kh · W · 9.8 =  N
- (4) 設計用鉛直地震力 Fv = Kv · W · 9.8 =  N
- (5) アンカーボルトの引抜力 Rb =  $\frac{Fh \cdot Hg + (W \cdot 9.8 + Fv) \cdot (L - Lg)}{L \cdot Nt}$  =  N
- (6) アンカーボルトのせん断力 Q = Fh / N =  N
- (7) アンカーボルトに生ずる応力度
  - ① 引張応力度 σ = Rb / A =  MPa < ft = 176.4 MPa
  - ② せん断応力度 τ = Q / A =  MPa < fs = 132.3 MPa
  - ③ 引張とせん断を同時に受ける場合 fts = 1.4ft - 1.6τ =  MPa
  - σ =  MPa < fts =  MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
  - ① アンカーボルトの施工法 =
  - ② コンクリートの厚さ =  mm =  m
  - ③ ボルトの埋込長さ =  mm =  m
  - ④ 許容引抜加重 Ta =  N > Rb =  N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分な強度を有する。  
本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

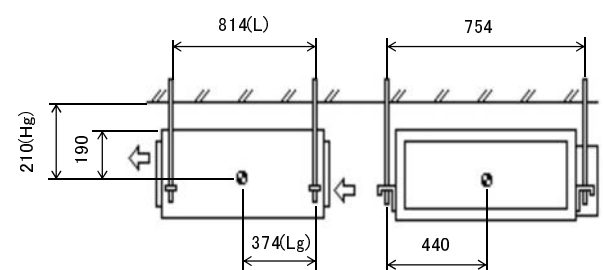


図 1

三菱電機株式会社	作成日	16/6/10	仕様書番号	WYNB1-1957	副番	-
----------	-----	---------	-------	------------	----	---